

「成果目標」に関する各部会の主な意見

1 部会における共通事項

① 検討方法及び検討期間

- ・今回新たに「成果目標」を設定することは大きな進化であるが、成果指標は非常に重要であり、携わったさいたま市の別の研究会での指標づくりは1年かけている。
- ・他市の事例だが、総合計画の評価項目づくりに、様々な文献を収集して適切な指標を1年半かけて検討している。
- ・欧州や国内他市における成果目標を参考にして、本市だけでなく、他地域の満足度や整備率等と比較するなど、横のチェックができた方がよい。
- ・今の指標が悪いというわけではないが、もう少し研究した上で、仮に設定し、後で差替えや修正をしてもよいのではないか。
- ・細かい数値を掲げることについて意味があるのか。誤差の範囲ととらえることもできるので、更なる検討が必要と感じる。

② 成果指標及び目標値の設定

- ・施策単位で主観指標（市民の実感）のみではなく、客観指標もあってもよいのではないか。
- ・5年後、10年後にも比較できるよう文言も含め吟味する必要がある。
- ・あまり費用をかけずに、データが取れるような持続可能な指標を置いた方がよい。
- ・主観指標を設定するのであれば、市民アンケートを継続的に実施することが前提となる。
- ・細かい数値を掲げることについて意味があるのか。誤差の範囲ととらえることもできるので、更なる検討が必要と感じる。（再掲）
- ・今後の様々な変化を踏まえると、成果目標をあまり細かく設定することは難しい。
- ・目標値については、根拠がないのであれば設定する必要はないように思う。
- ・なぜ増やさないといけないのかなど、指標設定の理由が重要である。数字の一人歩きや数字の自己目的化は避けなければならない。

③ その他

- ・施策展開と成果指標が対応するように、成果目標の数を合わせてはどうか。
- ・各施策の構成について、「施策展開」の後にそれぞれ対応する「成果目標」がある並び順の方がわかりやすいのではないか。

2 個々の成果指標及び目標値に関する意見

⇒別添の資料 1 - 4 を参照